

社会福祉法人 万葉の里

令和4年度

国分寺市障害者センター事業報告

I 事業総括	1
II 障害者センター事業部門	
部門総括	2
事業別進捗状況	
1. 地域活動支援センターつばさ	4
2. 生活介護事業 太陽	12
3. 自立訓練事業(生活訓練・機能訓練)はばたき	16
4. 就労継続支援事業B型 どーお	21
5. 短期入所・日中一時支援事業えんじゅ	25
6. 保健衛生	31

I 事業総括

令和4年度事業運営状況について

理事長 室 地 隆 彦

令和4年度は、引き続き新型コロナ感染予防対策を継続しながらの事業運営となった。また、法人設立20周年を迎える年度、中期計画の実施初年度、障害者センターの第6期(令和5年度～令和9年度)指定管理者の指定に向けた準備の年度ともなり、様々な業務が重なった年度ともなった。

新型コロナの感染については、生活介護事業太陽で7月末から職員・利用者に陽性者が多発し、8月4日から11日の期間、利用の自粛をお願いすることとなった。グループホームでは、7月末から9月まで2か月にわたり、順次感染者が発生したため、ホーム内での隔離対応を実施した。そのため感染拡大により利用を見合わせる方や、グループホームでは、自宅へ戻る利用者もあり、利用率が伸びないなど経営面での影響も少なからずあった。また、感染対策を取るうえで、産業医との連携の必要性を改めて再認識することとなった。

法人設立20周年を迎えるにあたっては、コロナ禍という制約がある中で、広報誌「ことのは」の特集で、法人の歩みや関係者のインタビューなどを取り上げるとともに、利用者による「万葉の里 設立20周年ポッチャ大会」を開催した。ご自身が投げたボールが転がる先を見て、一喜一憂する様子を伺い、また、普段、あまりない、競うという経験を通じて、皆さんに楽しんで頂ける企画となったのではないかと。

事業運営、特に中期計画で取り上げた事業の実施にあたっては、令和4年度は、その初年度でもあり、計画に基づく事業運営を目指し、実施の体制整備として障害者センターでは、全ての事業で「運営委員会」を設置し、取り組んだ。障害者センター事業部門では、一般相談と計画相談との連携による相談支援の充実(つばさ)、看護師と支援員の連携による医療的ケアを必要とされる方の受け入れ体制の整備(太陽)、生活訓練・機能訓練の運営形態の変更(見直し)による支援とその周知、相談支援事業所との連携(はばたき)、業務部門の見直し(どーむ)、週末の日中利用希望者の増加に伴う対応(えんじゅ)。またKOCO・ジャム事業部門では、利用者の確保や利用率の向上、支援数・支援時間を増やすことによる安定した経営。基幹相談支援センター部門では、多職種・他分野連携の要の役割を果たす、を掲げ、各事業部門で取り組んだ。各事業部門で進捗状況の差はあるものの、例えば、えんじゅの日中一時支援事業では、希望者の増加に伴う受け入れに、7月から障害者センター2階の多目的室を使うことで、要望に応え、利用時間の増加につながっている。なお、利用者の獲得・利用率の向上については、障害者センター事業部門、KOCO・ジャム事業部門とも目標としている値には届いておらず、経営の安定の側面からも、更なる工夫と努力が必要である。

障害者センターの第6期(令和5年度～令和9年度)指定管理者の指定に向けた準備については、夏に第6期(令和5年度～令和9年度)指定管理者申請を行い、無事、指定を受けることができた。併せて、指定管理者の指定に伴い、5年に一度更新する、給食業務、送迎業務の委託、情報機器等のリース契約の業務を順次行った。

人材育成・職員体制については、休職者が多く発生した年度であった。職員が復職するにあたっては、その訓練中においても主治医と産業医との情報共有・指示のもとで取り組むことが大切であるということをも改めて痛感した。

II 障害者センター事業部門

1. 事業全体を振り返って

1) 事業運営

令和4年度は、第6期指定管理申請に向け、事業運営における企画提案書及び事業計画書を提出し、令和5年度から5年間の指定管理の指定を受けることが決定した。新型コロナウイルス感染症については、感染状況に応じて感染対策をとり、事業運営を行った。その状況の中、7月末から生活介護事業太陽(以下「太陽」という。)で職員・利用者に陽性者が多数発生し、8月4日より11日の期間で利用自粛のお願いをすることとなった。職員の感染予防対策としては、東京都保健福祉局の制度を活用して週2回の抗原検査を8月から実施し、次年度も継続予定である。2類から5類への変更に向けての感染症対策の緩和については、国・東京都・国分寺市が示す方針に則り、「ハイリスク施設に準じる」慎重な対応を継続する。

2) 利用者支援

利用者の高齢化・重度化への対応や、医療的ケアを必要とされる方の受け入れ体制整備がセンター全体の課題となっており、看護師と支援員との連携強化及び支援員の医療的な知識増進や技術向上を図る取組を行った。また、太陽の職員2名が東京都保健福祉局主催の「介護職員等によるたんの吸引等の実施(特定の者)」基本研修を受講した。その他、外部講師を招いての医務研修を年2回実施した。呼吸器装着者の単独通所に向けて取組として、今年度新たに1名の利用者が開始となった。これにより、現在は2名の利用者が、それぞれ週1回家族の待機場所変更を段階的に実施している。

相談業務の充実としては、地域活動支援センターつばさ(以下「つばさ」という。)の総合的な相談機能を強化し、計画相談と連携しながら多様な相談に対応している。また、地域での活動への参加や外出プログラム等、地域の社会資源の活用に取り組み、地域での暮らしを充実させる支援を実施した。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

1) 利用者支援の充実 様々なニーズに応える支援の充実を図る

①つばさの相談業務については、世帯で支援が必要な方や、障害サービスを利用するまでに整えが必要な方等の様々なニーズに対して、計画相談と連携しながら総合的な相談機能を強化して対応している。職員体制としては7月に1名退職、休職していた職員1名が2月に退職、年度末で雇用契約満了に伴う退職1名があり、職員の補充と担当の引継ぎ等で万全ではない状態での運営となったが、課長・課長補佐が現場のフォローに入りながら運営を継続した。

②太陽は今後の医療的ケアのニーズに応えられるよう、支援職員が行える医療的ケアのサポートの内容を整理し、看護師との連携体制の整備に取り組み、研修を計画的に実施した。職員体制としては休職者が2名出ており、その内1名については2月より復職支援を開始した。

③自立訓練事業はばたきについては令和5年度からの運営形態の変更が決まったため、オンラインや直接出向いての説明会を行い周知に努めた。なお、8月から職員1名が休職をしているため、課長が現場のフォローに入りながら運営を継続した。

④就労継続支援B型どーむについては、12月12日より感染症対策を取りながらカフェタイム(午後2時～3時)を新たに設けた。また、再利用可能な弁当箱や、紙製ドリンクカップへの切り替え等によるプラスチックごみ削減の取組や、着色料・保存料等の無添加スイーツ販売など、健康や環境に配慮した運営を行っている。

⑤日中一時支援事業えんじゅは、週末の日中利用希望の増加に対応するために7月より多目的室

の利用を開始し、利用時間の増加につながった。児童の利用が増加しているため、児童への支援ができる職員の確保と育成が課題となっている。また、緊急入所保護事業で7月・8月・3月に3名受け入れた。

2) 利用者の獲得と利用率の向上

特別支援学校高等部からの実習生について、太陽4名(3年生1名、2年生3名)、どーむ4名(3年生1名、2年生3名)を受け入れ、その内1名が令和5年度太陽の契約につながった。それ以外の利用希望者についても、見学や実習を随時受け入れ、ご本人のニーズ把握に努め、利用調整を図っている。また、利用率向上への取組として、休みがちな利用者については必要に応じて面談や訪問を行い、体調把握や生活相談等を継続している。その他、通所日の変更を希望している利用者については、体調等も鑑みながら、安心して通所できる環境を整えて、ご本人の希望にできるだけ応えられるように支援している。はばたきについては令和5年度からの運営形態の変更についてパンフレットの刷新、関係機関へのオンライン説明会、障害福祉課担当職員への説明等を行い、周知に取り組んだ。

3) 日中一時支援の運営の多角化

日中一時支援の問い合わせが児童を中心に増えており、利用希望が集中しがちな週末や長期休み期間について、2階多目的室の利用を開始した。ショートステイの居室とは環境が大きく違うため、利用を繰り返しながら適正な運用方法に取り組んでいる。児童の利用については、事前の家族・相談支援専門員からの聞き取りや、初回利用時のアセスメントを丁寧に行い、特性やニーズに合わせて、本人に負担がかからないように段階的な利用できるよう取り組んでいる。また、児童の特性を理解して支援を行える職員の確保や育成が今後の課題となっている。

4) 地域生活支援の充実

つばさでは引き続き、「いきいきセンター」や「ひかりプラザ体育館」等の外部施設利用、外出プログラム、ポッチャ大会参加等の活動を行い、市民との交流、活動の場を地域に広げる支援を行っている。参加にあたり、登録をしていなくても参加できるプログラムを設定して体験利用の機会を設け、市全体で取り組んでいる地域生活支援拠点における「体験の機会・場」の充実の一つとして位置付けている。また、普及啓発活動としては、一緒に体験する機会をつくり障害理解が深まるような取組や、当事者の声を聴く場を設けて、支援者と当事者がともに学んで連携・協働できる支援ネットワークの場づくりに取り組んでいる。

3. 人材育成

法人全体の新任研修については、入職時期や部署に関わらず同じ内容で受講できるよう、対面での研修、事業説明の動画視聴、障害理解や支援の基礎知識についてe-ラーニングの活用等、各課で計画的に実施できる体制を整えた。また、業務上必須の資格取得については法人全体で計画的に取り組んでおり、相談支援従事者初任者研修を2名受講した。その他にもサービス管理責任者や介護職員等によるたんの吸引等の実施(特定の者)等、必要に応じた研修への参加を実施した。

1 地域活動支援センターつばさ

1. 事業全体を振り返って

1) 事業運営

サロン事業については、交流サロンの人数制限や時間制限、飲食を伴う活動の制限継続等、感染防止対策を実施しつつ、可能な範囲での活動を継続した。そのような中でも、季節ごとの創作活動やウォーキング、防災に関する学習、利用者の声を活動に取り入れグループ活動を通して一人ひとりの力を発揮できる機会をつくることに取り組んだ。一方で、歌や調理等コロナ禍において、継続して実施が難しい活動もあった。また、新たな取組として登録をしていなくても参加できるプログラムの枠組を増やし、登録につながる前の体験の機会の幅を広げ、つながりのきっかけづくりの形を探っている。その他、地域に出向き、地域の中で市民と一緒に活動を行う形は定着してきており、ボランティアの数も少しずつ増えて、活動に広がりが見られている。

令和5年度より、地域活動支援センターに重層的支援体制整備事業の役割が求められる。そのことを見据え、普及啓発事業も含め、地域とのつながりを意識した取組を実施した。これらの取組を今後も継続し、更に世代や属性を超えて住民同士が交流できる多様な地域活動がうまれやすい環境整備につなげていきたい。

2) 利用者支援

相談支援では、一般相談と計画相談とが連携し合って支援する形を整えてきた。数年単位で相談支援を継続してきた一般相談のケースが計画相談につながった件数も多く、次のステップにつながるまでの継続的な相談支援の重要性も実感できた。一般相談では、8050世帯も含め世帯全体に支援が必要なケースや、地域や社会とのつながりを求める相談が増えてきている。必要に応じて計画相談との連携や他の関係機関との連携も視野に入れ、地域での生活を支える視点でつながりを拡げていけるよう相談支援を継続している。

3) DJTの実施

課長面談を実施したほか、必要に応じて個別に面談を実施し、業務や利用者支援に対する姿勢や対応等を自ら振り返り考えることができる機会を設定した。新規採用職員2名については、つばさ全体に関する業務内容や利用者支援に関する説明を行いながら、日常的な業務の振り返りを行った。専門員会議、地活会議においては、主に利用者支援における意見交換を通じてピアグループスーパービジョンを行った。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

1) 計画相談……本人の持つ力を活かし、その人らしい生き方の実現を支える

個別事業名	到達状況	課題
専門員の質の向上	専門員会議にて各専門員が得た最新の制度の知識やサービスの情報共有を図った。情報は毎月更新している。また、事例検討では野中式事例検討を取り入れ、専門員全体で客観的にケースの再アセスメントを行いながら支援の振り返り及び支援の方向性の再設定等、検討を行うことが定着した。事例検討からみえる地域課題の抽出も行った。	専門員全体で最新の情報共有ができるよう取り組みを継続する。 事例検討は定着してきたため、専門員のみではなく、つばさ全体での事例検討にもつなげていく。

業務効率の向上	最新の情報確認が効率よく行えるよう、事業所情報のファイリング方法を整理した。タイムリーに情報が得られるようにシステムとして整えた効果は高い。また、計画相談にかかわるデータ保存方法を統一し、必要なデータ確認が滞りなく行えるよう整えた。	更新した情報を効率良く検索ができるよう、環境の整えを継続する。事務作業の効率化をはかるうえでは皆が共通して実施できる方法を検討し、共有していく。
チーム支援体制	一般相談から計画相談につながるケース、計画相談から一般相談につなぐケースは増えている。一般相談と計画相談の流動的連携の形ができ始めている。	それぞれのケースの実情に合わせて、一般相談と計画相談で連携したアプローチを構築していく。

2) プログラム・グループの力を活用し、自己表現や他者受容の場を経験して、生きる力を高める

個別事業名	到達状況	課題
サロン事業・夕日かがやき事業	登録更新面談にてつばさ利用の希望や目的を本人から聴き取り、双方で確認することが定着した。アセスメントを定期的に重ねていく方向性ができた。 センター内での活動にとどまらず、地域に出向いて活動する形を拡げるなかで、地域のポツチャ大会への参加が定着し、利用者も市民の一人として地域で一緒に活動する取組が継続できている。	更新面談にてつばさの利用に関するアセスメントを重ねていく取組を継続する。 登録していない人も体験的に参加できる活動について、有効に活用していただけるように、周知方法や利用の受け入れ方法も含めて検討を継続する。
障害者ピアサポート事業	利用者の声を活かした活動としてハンドクラフトクラブの活動が始まった。つばさへの登録がなくても参加できる活動のひとつになっている。また、防災安全課の方に来ていただいた防災に関する勉強会では、利用者自身が生活に活かすことのできるプログラムとなった。活動を通して、利用者同士が支えあい学び合う活動を継続していく。	コロナ禍においては、皆で集まって話し合う機会が制限されることが多かった。感染防止対策緩和の流れに沿い、皆で集まって活動する機会や勉強会等の機会を設定し、活動を通して利用者同士が支え合う体験を推進する。

3) 一般相談……住み慣れた地域での暮らしを維持するために、様々な社会資源などつながり、地域の力を活用する

個別事業名	到達状況	課題
一般相談・指定一般相談	初回面談は多角的な視点でアセスメント行えるよう、複数の相談員で対応し、主任、課長補佐、課長が参加する会議で課題の整理を行いながら必要に応じて複数担当や計画相談との連携を行った。 地域定着支援は対象ケースの設定ができ	複数の相談員の視点でのアセスメントを継続し、必要に応じて複数担当や計画相談との連携を行う。 地域定着支援の対象ケースについて、

	ず、支援の体制は整っているが、支援開始はできなかった。地域移行支援については、精神保健福祉部会と連携した支援体制づくりが進んでいる。	市との相談を継続する。 地域移行支援、地域定着支援ともに、精神保健福祉部会と連携し、つばさにおける支援実施につなげていく。
関係機関との連携（高次脳機能障害促進事業・発達障害者理解促進事業）	コロナ禍により参加者による対面での意見交換の機会の設定が難しく、講演会形式での実施が中心となったが、可能な限り対面での会場参加や対談形式での講演会開催も行う等、感染状況により少しずつ参加の機会と内容の幅を広げた。 家族も含め講演会では当事者が登壇し、当事者の話から学ぶ機会を設定し、連絡会や情報交換会を通して、当事者との協働の機会を構築する準備ができた年となった。 当事者とともに、当事者の視点から支援を考える機会を通して、本人中心の支援ネットワークの構築をはかっていく。	感染防止対策緩和の流れに沿い、意見交換できる場を再設定していく。 当事者とともに、当事者の視点から支援を考える機会を通して、本人中心の支援ネットワークの構築をはかれるよう引き続き取り組んでいく。
対面朗読派遣事業	新規での利用希望はあるが、利用対象外の場合が多く利用につながらない。土日は利用できないために利用につがっていない方もある。ヘルパー支援で代読ができることやスマホ等情報機器の充実も利用者が増えない要因だと思われる。利用者の希望に合わせて事業継続する。	利用者の希望に合わせて事業継続に取り組む。
市民福祉講座	参加型・体験型の市民福祉講座を実施し、市民と一緒に自然な形で学び合うことができたことは大きな成果であった。	市民と一緒に学び合う機会を設定できるよう継続する。市内の各団体とも協力しながら、障害のあるなしにかかわらず、だれもが住みやすい街づくりに向けて、互いの理解と地域とのつながりを深めていく。
当事者活動支援	希望により面談等を実施した。支援してきたグループは自らの活動が継続できている。	サロン事業の活動を通して、利用者同士が互いに支えあう体験を積み重ねることができるよう支援していく

3. 活動実績

1) 相談実績

総数 10,834 件 (総合相談 4,214 件、計画相談 6,620 件)
 平均相談件数 34.3 件 (実働日 316 日)
 新規相談 84 件

① 相談支援の方法

(単位 件)

種別	訪問	来所	同行	電話	メール	CC	関係機関	その他	計
一般 (前年)	48 (85)	323 (457)	55 (55)	3,342 (4,309)	7 (11)	17 (19)	382 (772)	40 (43)	4,214 (5,751)
計画 (前年)	563 (506)	529 (607)	69 (36)	1,876 (2,093)	91 (17)	77 (65)	3,364 (3,117)	51 (80)	6,620 (6,521)
計	611 (591)	852 (1,064)	124 (91)	5,218 (6,402)	98 (28)	94 (84)	3,746 (3,889)	91 (123)	10,834 (12,272)

*CC(ケースカンファレンス)：関係者会議。

※相談件数は、頻りに相談する利用者の有無によって変動する。

② 相談内容

総合相談

(単位：件) (構成比%)

計画相談

(単位：件) (構成比%)

福祉サービス	558	11.3	福祉サービス	5,537	54.1
障害理解	192	3.9	障害理解	1,864	18.2
健康医療	429	8.7	健康医療	1,044	10.2
不安解消	2,321	46.8	不安解消	447	4.4
保育教育	0	0.0	保育教育	227	2.2
家族・人間関係	606	12.2	家族・人間関係	477	4.7
家計経済	118	2.4	家計経済	115	1.1
生活技術	177	3.6	生活技術	82	0.8
就労	110	2.2	就労	104	1.0
社会参加・余暇活動	210	4.2	社会参加・余暇活動	98	1.0
権利擁護	15	0.3	権利擁護	34	0.3
その他	223	4.5	その他	201	2.0
地域移行	0	0			
合計	4,959		合計	10,230	

※相談内容は、1回の相談の中で複数の内容がある場合は、それぞれの項目に計上。

※相談件数は、頻りに相談する利用者の有無によって変動する。

③ 計画相談の契約数

契約者数 324 人(3月末)

サービス等利用計画作成件数	305 件
モニタリング報告件数	565 件

2) 加事業

① プログラム別参加者数

プログラム名	令和4年度参加人数	平均参加人数	実施回数
交流サロン	1,284	4.4	291
パソコン広場	56	2.4	23
アートサロン	123	5.6	22
プレイス	93	7.8	12
WRAP	55	5.0	11
たがやし隊	16	1.8	9
ハンドクラフト	26	2.6	10
合計	1,649	—	—

② つばさトーク

開催予定	テーマ	参加者
10月26日	学習会「防災について考えよう」 講師：●●●●氏（国分寺市 防災安全課 係長）	3名
12月26日	交流サロン大掃除	1名
1月7日	新年書初め	7名

③ いきいきプログラム・スペシャルプログラム

開催日	内容	参加者
5月22日	りらくすヨガ	5名
6月26日	りらくすヨガ	5名
7月24日	りらくすヨガ（講師体調不良のため中止）	
9月25日	楊名時太極拳	5名
10月23日	楊名時太極拳	3名
11月27日	楊名時太極拳	4名

④ スペシャルプログラム

9月24日	ノルディック体操（プレイスと合同）	5名
10月29日	ノルディックウォーキング（プレイスと合同）	7名
11月19日	ノルディックウォーキング（プレイスと合同）	7名
12月22日	冬のアートサロン教室 お正月飾り作り	7名
2月4日	フラダンス	10名
3月4日	フラダンス	10名

⑤ たがやし隊

開催日	内容	参加者
4月7日	花の苗、野菜の種を植える	1名
4月21日	草取り	1名

5月19日	草取り	4名
6月2日	草取り	2名
6月16日	草取り	2名
8月1日	草取り	2名
8月15日	花壇整備	0名
9月5日	草取り	0名
10月3日	収穫作業	0名
11月17日	収穫作業	1名
12月9日	オハナ農園に苗を買いに行く	1名
12月15日	花の苗を植える	2名

⑥ 夕日かがやき事業（週末の余暇活動）

○プレイス

日程	内容	参加者
5月8日	ポッチャ、モルック	10名
6月4日	モルック作り	11名
7月2日	モルック作り	10名
8月6日	ポッチャ交流会（新型コロナ感染拡大のため参加中止）	0名
9月24日	ノルディック体操（いきいきプログラムと合同）	5名
10月29日	ノルディックウォーキング（いきいきプログラムと合同）	7名
11月19日	ノルディックウォーキング（いきいきプログラムと合同）	7名
12月3日	ポッチャ	8名
12月18日	ポッチャ交流会	5名
1月22日	室内ホッケー	8名
2月23日	ポッチャ交流会	6名
2月26日	室内ホッケー	8名
3月26日	室内ホッケー（お花見を予定していたが雨天のため雨プロ）	8名

○WRAP（元気回復行動プラン）グループ

日程	内容	参加者
4月9日	WRAPとは ～元気に役立つ道具箱～	6名
5月14日	希望の感覚ってどんなもの？	4名
6月11日	日常生活管理プラン	5名
7月9日	主体性	6名
8月20日	引き金と対応プラン	5名
9月10日	学ぶこと	6名
10月22日	注意プランと対応プラン	4名
11月26日	私の権利を守ること	4名

12月10日	調子が悪い時のサインと対応プラン	5名
1月14日	調子が悪い時のサインと対応プラン	5名
3月11日	クライシスとクライシス後のプラン	5名

⑦ 高次脳機能障害支援促進事業 プログラム<高次脳機能障害関係機関連絡会>

日程	内容	実績
6月23日	<p>内容：高次脳機能障害者を支える就労支援</p> <p>講師：●●●●●氏 (東京都心身障害者福祉センター 高次脳機能障害者支援担当課長代理)</p> <p>講師：●●●●●氏 (就労移行支援事業所レジリエンス 管理者)</p>	43名 (会場10名、オンライン33名)
10月12日	<p>内容：高次脳機能障害者の心理面と情報処理機能の変化</p> <p>講師：●●●●●氏 (文筆業)</p> <p>講師：●●●●●氏 (世田谷公園前クリニック 名誉院長)</p>	65名 (会場7名、オンライン58名)
3月16日	<p>内容：当事者が語る「高次脳機能障害と私の生活期」</p> <p><第1部> 講師：●●●●●氏 (文筆業) ゲスト：●●●●●氏 (一般社団法人一粒福社会 看護師 / 職員)</p> <p><第2部> 講師：●●●●●氏 (世田谷公園前クリニック 名誉院長)</p> <p>ゲスト：●●●●●氏 (デイオアシスマほろば 利用者)</p>	40名 (会場11名、オンライン29名)

⑧ 対面朗読者派遣事業 登録者数 6名 派遣回数 11回

⑨ 発達障害者理解促進事業 プログラム<発達障害者支援関係機関情報交換会>

日程	内容	実績
8月3日	<p>内容：支援者間で本人理解を深めるには</p> <p>～「自立のための課題とバランス」の3本柱～</p> <p>講師：●●●●●氏 (こどもと家族のメンタルクリニックやまねこ院長)</p>	37名 (会場2名、オンライン35名)

2月1日	<p>内 容：ライフステージの変化を意識した切れ目ない支援 を考える～児童から成人へ～</p> <p>ファシリテーター：●●● 氏</p> <p>(こどもと家族のメンタルクリニックやまねこ院長)</p> <p>パネリスト：●●● 氏(東京都立小児総合医療センター 思春期デイケア 看護師)</p> <p>●●● 氏(ハッピーテラス国立駅前教室 管理者 / 公認心理士)</p> <p>●●● 氏</p> <p>(国分寺市障害福祉課 係長 / 保健師)</p>	28名 (会場8名、 わいわい20 名)
------	---	-------------------------------

65

⑩ 市民福祉講座

日程	内容	実績
9月17日	<p>内 容：見えにくいってどういうこと？ ～弱視者の生活と日常の工夫を知る～</p> <p>講 師：●●● 氏 (日本弱視者ネットワーク代表)</p> <p>協 力：●●● 氏 (NPO 法人視覚障がい者ネットワークコトリナ)</p>	25名 (会場14 名、 わいわい11 名)
12月10日	<p>内 容：「障害者センターってこんなところ」</p> <p>① 障害者センターの紹介・館内見学ツアー</p> <p>② 活動体験 (高さ160cmの紙コップクリスマスツリー作り)</p> <p>協 力：●●● 氏</p>	16名
1月28日	<p>内 容：障害や年齢にかかわらず、誰もが参加できるインクルーシブな場づくりについて～こくぶんじ地域クラブの取り組みから～</p> <p>① 講演(こくぶんじ地域クラブ、つばさ)</p> <p>② スポーツ体験</p> <p>講 師：●●● 氏(こくぶんじ地域クラブ副代表)</p> <p>協 力：こくぶんじ地域クラブ</p> <p>場 所：国分寺市ひかりスポーツセンター</p>	25名

66

2 生活介護事業太陽

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

前年度同様に感染症対策を行いながらプログラムや行事を継続・再開した。感染拡大の状況により延期したり参加を見送る方もいたが、概ね実施できた。公共交通機関を利用した外出なども一部実施したが、約3年の自粛生活を経て利用者にも戸惑いが見られた。一日外出や期日前投票など一部再開を見送った活動や太陽全体での交流活動の全面再開に向けた1年となった。また、事業の魅力を発信する方法の見直しについては、新規利用の問い合わせが重度の障害の方が増えていることを考慮し、IC ツールを用いた手段を検討することとした。新たなパンフレットの作成は活動の全面再開を優先したため、次年度取り組むこととした。それまでの間は、現在のものに活動の写真を追加するなど一部修正し、活動イメージが持ちやすくなるよう刷新した。

2)利用者支援

研修については、外部研修も徐々に活用しながら内部研修に力を入れ取り組んだ。講師やスーパーバイザーなど外部の方の協力を積極的に得て、さまざまな知見や気づきを得て共有する時間を部署会議内にて設け、チーム全体の支援力の向上に努めた。特に医療的ケアに関する方への支援については昨年度より継続して同じ講師に協力を仰ぎ研修を行いながら中期計画に沿って医務と連携し、支援員の医療的ケアに対する知識や理解を深めている。

3)OJTの実施

今まで確立していなかった手順を試行的ではあるが系統立てて取り組んだ。課長・主任・現場職員がそれぞれ担当する項目を分け行うことで、手技だけでなく事業の特徴や方針、基礎知識を獲得し、職員一人ひとりが安心して従事できるよう取り組んだ。同時期に複数名の入職者がいる場合、OJTの進捗遅れや座学の時間を十分に確保できないなど課題はまだあるが一定程度効果があがっている。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

個別事業名	到達状況	課題
1. 医療的ケアのある方の支援の充実	医療的ケアに関する5か年の計画を作成した。痰の吸引研修について、研修後の技術維持についても図れるよう5か年計画に盛り込んでいる。医療的ケアに関する研修について、医務研修と位置づけ、継続的に実施している。	作成した医療的ケアに関する5か年の計画に基づき、医務研修、第三号研修、第三号研修修了者のアフターフォロー計画を進める。 次年度、看護師が1名増員となるため、支援職が実践する医療的ケアの内容について医

<p>2. 社会参加への取組と事業の魅力を発信する取組</p>	<p>呼吸器装着者家族の待機場所変更について、小さなミスやトラブルもあったが、その都度振り返り対策を立て再開する流れもできている。年度当初の進捗予定より遅れてはいるが、徐々に時間を延長している。</p> <p>感染拡大により延期、辞退となることもあったが全体での行事を再開した。特に半日外出などではテーマパーク等にも行き始めており、行動や活動範囲が拡がり、充実したものとなってきている。利用者からの希望も増えており、行事の計画・準備の段階から利用者で行っている。意思の表出の弱い利用者は特に、意思形成支援から行うよう心掛け、回数を重ねている。</p> <p>また、リスク回避のため「やぐら型リフト」を2基導入した。それに伴い広いマットスペースができ、環境が整備された。その中で複数の利用者に同時に関わり、利用者同士の交流もより増えている。</p> <p>事業の魅力を発信する取組としてパンフレット等の見直しを行った。利用を希望する方は重度の障害の方も多く、活動の様子がより分かりやすくなるよう写真をパンフレットに追加し、イメージしやすいものに刷新した。一方で、もう少し視覚的なアプローチができるとよいのでは、との意見もあり、今後も継続して検討する。</p>	<p>務チームと協議し具体的に決定する。また、支援員が医療的ケア実施のための事業者登録についても準備を進める。</p> <p>次年度前半に単独通所の試行を行う予定である。試行前に市と協議する場を設ける。</p> <p>上記の取組から、支援職と看護師の連携を更に高めていく。</p> <p>現在は昼食を含む外出は行っていないが、今後は昼食を含む外出についても検討する。</p> <p>また、本人と家族の希望を明確に分けて考えながらも、家族の思いは家族会などで受け止めて家族との連携を図り、本人の思いの実現を図ってきたい。</p> <p>次年度よりタブレットを導入することとしており、写真や動画で事業紹介をしていく環境は整うため、早めに取り組みたい。</p>
---------------------------------	--	---

3. 利用者の状況等

1) 利用者の状況

① 利用者の推移（令和4年4月1日～3月31日）

新規利用者 3名	新卒者2名、他市より転入者1名
退所利用者 1名	施設入所のため

② 年齢別利用者数（令和5年3月31日現在） 平均年齢 37歳5ヶ月 （単位：人）

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
2	12	15	12	4	2	47

③ 利用者の障害支援区分（令和5年3月31日現在） 平均 5.4 （単位：人）

区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
1	0	6	9	31	47

④ 1日平均利用者数 平均 35.1人 （単位：人）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	36.6	35.5	36.2	37.0	24.6	34.8
(前年)	(36.3)	(35.2)	(36.3)	(36.4)	(33.3)	(31.4)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	36.5	36.9	34.6	35.6	36.3	37.0
(前年)	(36.1)	(36.6)	(36.3)	(35.9)	(31.8)	(31.8)

※7月末頃よりコロナウイルス陽性者が判明し、8月に6日間通所自粛を依頼した。また、再開以降も感染拡大状況から自粛していた利用者もいたため、8月の利用率は低下傾向にある。

⑤ 障害手帳（令和5年3月31日現在） 重複あり（単位：人）

愛の手帳				身体障害手帳						精神保健福祉手帳		
1度	2度	3度	4度	1級	2級	3級	4級	5級	6級	1級	2級	3級
8	27	3	1	22	10	1	1	2	2	1	1	1

2) 行事等の実施状況

①行事

4月	入所式（通所事業合同）	1日	利用者全員
	お弁当給食（通所事業合同）	21日	利用者全員
5月	施設交流会	20日	利用者6名・職員3名
	宿泊体験	26日～27日	利用者2名・職員3名
6月	宿泊体験	23日～24日	利用者1名・職員2名
	半日外出	29日	利用者3名・職員2名
7月	半日外出	4日	利用者3名・職員3名
	半日外出	7日	利用者3名・職員3名
	半日外出	8日	利用者4名・職員3名
	半日外出	11日	利用者3名・職員3名

	ミニ緑日 (はばたきと合同)	13日	利用者・職員全員	
	半日外出	14日	利用者3名・職員2名	
	宿泊体験	21日～22日	利用者2名・職員3名	
9月	半日外出	2日	利用者1名・職員2名	
	半日外出	5日	利用者3名・職員2名	
	宿泊体験	8日～9日	利用者2名・職員4名	
	半日外出	14日	利用者2名・職員2名	
	宿泊体験	15日～16日	利用者3名・職員4名	
	半日外出	26日	利用者4名・職員3名	
	半日外出	28日	利用者3名・職員3名	
	半日外出	30日	利用者3名・職員3名	
	10月	半日外出	12日	利用者3名・職員2名
		宿泊体験	13日～14日	利用者2名・職員3名
お弁当給食 (通所事業合同)		21日	利用者全員	
宿泊体験		27日～28日	利用者2名・職員2名	
11月	宿泊体験	10日～11日	利用者2名・職員2名	
	宿泊体験	17日～18日	利用者2名・職員2名	
	宿泊体験	24日～25日	利用者2名・職員2名	
12月	半日外出	1日	利用者4名・職員3名	
	創作展示販売	6日～7日	利用者全員	
	宿泊体験	15日～16日	利用者2名・職員3名	
	ランチdeコース (通所事業合同)	21日	利用者全員	
1月	新年を祝う会 (はばたきと合同)	19日	利用者全員	
2月	半日外出	14日	利用者3名・職員2名	
	半日外出	16日	利用者3名・職員2名	
	半日外出	21日	利用者3名・職員2名	
	半日外出	22日	利用者3名・職員2名	
3月	半日外出	7日	利用者3名・職員2名	
	半日外出	8日	利用者3名・職員2名	
	半日外出	9日	利用者3名・職員2名	
	半日外出	13日	利用者4名・職員3名	
	半日外出	14日	利用者4名・職員3名	
	納め会	15日	利用者全員	
	半日外出	16日	利用者4名・職員2名	
	半日外出	23日	利用者4名・職員2名	
	半日外出	24日	利用者3名・職員3名	
	半日外出	27日	利用者4名・職員2名	

※利用者全員を対象とした行事については一部ZOOMを活用し密を避けて実施している。

②その他

*東経大コロナ事業として学生とのクラブ活動・交流を13回実施している。

*本人支給金：4月・7月・10月・1月に支給した。

*実習生受け入れ：小平特別支援学校より2名・武蔵台学園より2名・他区より転入1名
社会福祉士援助実習3名

3 自立訓練事業はばたき

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

①利用者の確保について

令和4年度は、修了者が4名あり若干利用率が減少している。周知活動の一環として取り組んでいるオンライン事業説明会を令和4年3月に実施しており、その内容を分析した結果、活動内容のわかりにくさが課題として挙げられた。課題の解決に向け、中期計画で示している「支援の三本柱」について①生活支援、②就労支援、③社会参加支援とそれぞれ言語化し、支援、活動内容の体系骨子としてまとめることができた。それらを基に新たな自立訓練事業の検討、新しいパンフレットの作成、支援、活動内容の整理、分類することができた。また、オンライン事業説明会后、はばたき専用のメールアドレスを作成した。説明会後も参加者とメールで情報共有や空き状況などを発信している。それにより、事業所から新規利用者の打診を受ける、説明会では把握できなかった事業内容の補足をするなど情報発信の形が見えてきた。安定した利用率の確保を念頭に情報発信の形を整えていきたい。

② 相談支援事業所との連携について

メール、Zoom を活用して居宅介護保険事業所、訪問看護事業所と活発な情報のやり取りができるようになった。それにより、利用者の生活状況や課題の把握、支援の成果や効果をチームとして共有でき、利用者支援についても、各事業所が同じ方向を向き取り組めるようになってきている。また、地域活動支援センターつばきとともに8050支援、引きこもり、母子家庭などの事例に取り組んでおり、福祉サービスにつながりにくいケースに対して、役割を分担し、福祉サービスにつなげていく体制ができつつある。

③事業形態の見直しについて

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などとも話し合いを重ねながら、機能訓練と生活訓練を一体的に運営していく骨格を作り、令和5年4月より新たな自立訓練としてスタートを切ることができた。実践を重ねながら、必要な人に必要なサービスが提供できる事業所を目指したい。

2)利用者支援

令和4年度の修了者は4名であった。その中で、高校卒業後から約20年、自宅で過ごしていた方の生活介護事業への移行や自立を目指して当時利用していた就労支援B型事業所と併用し最低賃金が支払われる地域活動支援センターⅢ型の仕事を開始、長期入院から地域に戻り、支援体制を整え再入院することなく、次の事業所へつながったケース等があった。「初めて給料もらったよ」と修了者より連絡を受けるなど、単に移行するのではなく、人生や生き方について新たな意味や目標を見出す、再獲得する、取り戻す支援が「はばたき」の役割だと改めて実感した。

3)OJTの実施

行動指針の「利用者本位のサービスの実現」の理解促進に重点を置いたOJTの取組について、課長補佐が中心となり支援や活動の目的・理由の説明を重ねた。その結果、支援員が根拠を持ち支援に臨むことが増え、自発的な活動構築・提案等、取組の効果を感じた。一方、支援について深く思い悩み、そのことが負担となってしまった支援員もいた。上記取組を基本方針としながらも、育成を図るときに何をどのように伝え、協働し支えあうか、もう一度チーム内で検討・再構築する必要があると捉えている。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

個別事業名	到達状況	課題
1. 利用者の確保	令和4年度は2名の新規利用者を受け入れた。しかし、4名の修了者があり生活訓練、機能訓練とも定員を満たすことができなかった。	前年度実施した2回のオンライン事業説明会について分析・改善を図り、令和4年12月に3回目の実施に臨んだ。実施後、新規の利用相談件数はやや増えたものの大きな利用者数増加には繋がらなかった。この結果を踏まえ、以下のように課題があると振り返っている。 ① 活動内容、成果、効果などが外部の人にわかりにくい。 ② 説明会開催後の後追い（フォローアップ）ができていなかった。 ③ 情報発信、受信の形を整える必要がある。
2. 相談支援事業所との連携	メール、Zoomを活用して居宅介護保険事業所、訪問看護事業所と活発な情報のやり取りができるようになった。それにより、利用者の生活状況や課題の把握、支援の成果や効果をチームとして共有でき、利用者支援についても、それぞれが同じ方向を向き取り組めるようになったと捉えている。	自立訓練事業の特性上、相談支援事業所、居宅介護保険事業所などとの連携は必要不可欠である。これまでも、それぞれの担当者同士で密に連携、情報共有をして支援に取り組んでいる。今後は以下が課題であると捉えている。 ① 個の対応からチームの対応へ。それぞれの事例に対して対応の基本となる体系・支援の流れを構築する。 例：ひきこもりの支援の形、8050支援の形等。 ② ネットワーク体制を構築する。空き状況、見学、体験などの情報を発信する。相談支援事業所からの問い合わせ

<p>3. 事業形態の見直し</p>	<p>機能訓練と生活訓練を一体的に運営する骨格を作り、令和5年4月より新たな自立事業としてスタートできるよう取り組んだ。</p>	<p>わせなどがスムーズにできるようネットワーク体制を構築する。 今後は以下が課題と捉えている。 ① プログラム、活動内容の整理と組み立て。 実践のなかで一週間のプログラム、活動内容を整理、検証していく。担当支援者が異動などで変更になったとしても継続したプログラム、活動を提供できるようにする。</p>
--------------------	--	--

3. 利用者の状況

8050 支援事例が母子世帯と父子世帯で2件あり、両者とも親が高齢である。親亡き後の生活は大きな課題であり、それぞれのケアマネジャーと権利擁護の利用、包括支援センターを交えての関係者会議開催などを提案、万が一を想定し少しずつ準備を進めている。はばたきの利用と並行して週1日から一般就労を始めた方も約1年の間に週3日まで増やすことができ、仕事をしていることで自己肯定感の高まりがみられ、安定した収入を得られるようになり、人生で初めてスマホを購入するなど、生活の質が向上している。また、入院以外で初めて親もとを離れ、短期入所を利用した方は「できるかどうか不安だったが、泊まることができ良かった」と自信をつけ、自立に向け短期入所の利用を継続していくことになった。概ね、現在利用中の利用者は、それぞれの目標に向かい確実に前進できている。この成果は相談支援専門員、ケアマネジャー、訪問看護など利用者を中心として、チームとして連携、協力、共同ができてきている結果だと考えている。

① 利用者の推移（令和4年4月1日～3月31日）

新規利用者	生活訓練：0人	
	機能訓練：1人	生活訓練利用から機能訓練の併用
退所者	生活訓練：3人	修了者1人（B型、地域活動支援センター、生活介護）
	機能訓練：0人	

② 年齢別利用者数（令和5年3月31日現在）

生活訓練 平均年齢 47歳5ヶ月

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
0人	1人	0人	0人	2人	1人	4人

機能訓練 平均年齢 55歳6か月

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
0人	0人	0人	0人	2人	1人	3人

③ 障害別利用者数（重複あり）（令和5年3月31日現在）

生活訓練

精神障害	発達障害	知的障害	てんかん	高次脳機能障害	身体障害
2人	2人	0人	0人	1人	2人

機能訓練

精神障害	脳血管障害	頭部外傷	進行性難病	脊椎損傷	言語障害	肢体不自由	てんかん	高次脳機能障害
2人	1人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	1人

④ 1日平均利用者数

生活訓練<開所日：月・水・金曜日> 平均 3.6人 (単位：人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	4.6	4.2	3.7	4.6	3.9	4.2
(前年)	(5.4)	(4.5)	(5.5)	(4.4)	(4.2)	(4.3)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	4.6	3.8	3.0	3.0	2.1	2.0
(前年)	(5.4)	(4.5)	(5.5)	(4.4)	(4.2)	(4.3)

機能訓練<開所日：火・木曜日> 平均 2.1人 (単位：人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	2.5	3.0	3.0	3.0	2.8	1.6
(前年)	(3.0)	(3.0)	(3.2)	(3.3)	(3.5)	(3.0)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	1.5	1.8	1.6	1.9	1.3	1.3
(前年)	(3.0)	(3.0)	(3.2)	(3.3)	(3.5)	(3.0)

⑤ 施設及び病院等訪問

施設及び病院等訪問	訪問内容	日時
	はらからの家（ピア国分寺）	4月8日（金）見学
	リハビリセンター転	4月15日（金）見学
	長谷川病院	4月18日（月）関係者会議
	リハビリセンター転	5月2日（月）体験同行 5月13日（金）実習同行 5月20日（金）関係者会議
	武蔵国分寺公園ストレッチ教室	5月9日（月）参加
	はらからの家（ピア国分寺）	5月11日（水）就労同行 5月18日（水）就労同行 5月25日（水）就労同行
	小金井公園	6月3日（金）一日外出
	ちえホーム	6月15日（水）見学
	まほろば	6月20日（月）見学

	はらからの家（ピア国分寺）	6月22日（水）就労関係者会議
	国分寺市清掃センター	6月28日（水）就労体験
	ジブリ美術館	6月30日（木）一日外出
	自立訓練事業カイエン	7月6日（水）見学
	小金井障害者センター	7月7日（木）交流会
	喫茶ほんだ	8月26日（金）見学

4 就労継続支援事業B型 どーむ

1. 事業全体を振り返って

1) 事業運営

令和4年度も新型コロナウイルス感染症により、引き続き事業形態を変更し取り組んだ一年であった。各部門の年度末の収支差額は、喫茶部門はマイナス、スイーツ、清掃部門はプラスとなった。スイーツ部門については、コロナ禍ではあったが、イベントが行われるようになり、大口の注文があったことによる結果となった。全体をとおして、清掃部門の収入が喫茶部門のマイナスの補填をしている結果であった。また、清掃部門では、安定した収入を得ることはできるが、従事する利用者が少ないことが課題として挙げられる。引き続き、利用者の作業意欲向上を図れるよう、利用者会議や利用者研修を定期的に行い、利用者が活動運営に関わる機会を設け取り組んでいきたい。併せて、部門によって収支のバランスが異なること、従事する利用者が不足している部門があること、これらのことは中期計画にも掲げていることであり、課題解決に向け計画的に検討していきたい。

2) 利用者支援

定員10名に対し、契約者数は18名だが、不調の訴えや欠席が続く利用者が数名発生した。他部署や他機関との連携が必要な方もおり、生活支援の割合が引き続き高まっている。安定した就労を行うには、生活を整えることも必要であり、事業全体でアセスメント力を向上することが不可欠であると痛感した。今後も他部署、他機関との連携を図り、利用者の「働く」を支えていきたい。

3) OJTの実施

部署の会議内で活発に意見交換が行われ、事業としてのチームが構築されてきた。今後は、更に日々の支援の中で計画に沿った支援が実施できているか、職員一人ひとりが個別支援計画に基づく支援を意識的にできるよう、OJTに取り組んでいきたい。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

個別事業名	到達状況	課題
1. 喫茶部門	12月12日からカフェタイムを開始し、弁当販売以外の売り上げを目指し取り組んだ。結果、少しずつはあるが、売り上げ増に繋がっている。弁当販売については、昨今の社会情勢により12月に値上げをしたが、日によって変動はあるものの20食程度の売り上げを維持している。	カフェタイムの時間(14時~15時)を延長することを目指す。また、ランチタイムのイートインについても次年度検討する。これらの取組をとおして収入アップに繋げる。

2. スイーツ部門	<p>東経大のデモ販売や生協の常設販売を定期的に行った。また、販路の拡大に関しては、12月3～4日にお仕事ネットワークのイベントとして、初めて西国分寺 nonowa の駅構内での販売会を行った。土日の2日間で用意した菓子は全て完売した。普段喫茶いずみ、スイーツいずみが閉まっていて購入できなかった方や、購入した方が喫茶いずみに買いに来られる方もおり、製品の周知やその後の集客に繋がった。</p>	<p>お仕事ネットワークをとおしでの販売のみならず、今後は、「どーむ」としてイベント参加、販売を実施できるよう情報収集等に取り組みたい。</p>
3. 清掃部門	<p>清掃部門として現在行っている作業は、市役所清掃と公園のトイレ清掃である。それぞれ土日の業務であること、雨天時も休めない作業であること、年末年始も作業を行うことが求められていること等から、作業の内容を考慮し「清掃手当」を設定することを協議した。</p>	<p>清掃部門に2月より市役所清掃に1名加わった。引き続き利用が増えるよう、随時見学や実習を受け入れていく。また、清掃用具の見直しを行い、利用者の方が清掃作業をしやすくなるよう、利用者と一緒に検討し業務の効率化を図っていききたい。</p>
4. 共同受注	<p>イトインの開始等、イベント等参加機会の増もあり、お仕事ネットワークからの共同受注は控えた。受注は控えたが、国分寺市内事業所との繋がりが、情報共有が可能となる活動であることから、今後も参加していきたい。</p>	
5. 利用者の工賃見直し	<p>清掃手当を7月より、新たに1回につき100円支給することとした。従事する利用者の増員にはつながっていないが、これまで従事されていた利用者が通所日を増やされた。手当の効果が若干あったと捉えている。</p>	<p>収支のバランスが作業部門毎に異なることから、工賃見直しの段階まではいたっていない。 次年度は、カフェタイムの時間を延長することランチタイムのイトインを行うことを計画しており、増収を図るよう努めたい。</p>

6. 事業内容・運営方法の見直し	各事業の整理を行うまでには至っていない。	業務課題の整理を行い、効率的な運営を行い、経営の安定化を図ることを検討していく。
------------------	----------------------	--

3. 利用者状況等

1) 利用者の状況

① 年齢別利用者数（令和5年3月31日現在） 平均年齢 44.1歳 （単位：人）

10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
1	2	2	6	7	0	18

② 1日平均利用者数 （単位：人）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用数	7.5	7.3	7.3	7.0	5.8	6.4
前年度	8.4	8.0	8.4	7.7	8.0	7.9
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用数	6.8	7.0	6.4	6.9	6.7	7.2
前年度	7.8	8.0	7.3	7.2	7.2	6.8

③ 利用者の障害の状況（重複障害あり） （単位：人）

精神障害	てんかん	知的障害	発達障害	肢体不自由	聴覚障害	高次脳機能障害
11	3	7	2	1	2	1

④ 障害支援区分 （単位：人）

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4
7	1	3	6	1

⑤ 活動内容

【活動種別】

種別	活動内容
喫茶いずみ	調理・弁当の提供・店内清掃
スイーツいずみ	製造・店頭販売・地域イベントに出店
清掃	市役所（第2庁舎）の清掃業務・公園トイレ清掃
その他	お仕事ネットでの共同受注作業・ポスティング

【週間活動スケジュール】

月	火	水	木	金	土	日
喫茶 スイーツ	喫茶 スイーツ	喫茶 スイーツ	喫茶 スイーツ	喫茶 スイーツ	清掃	イベント 時販売
喫茶 スイーツ ポスティング (不定期)	喫茶 清掃	喫茶 スイーツ	喫茶 スイーツ ポスティング (不定期) 清掃(不定期)	喫茶 スイーツ ポスティング (不定期)		

※清掃場所＝市役所第2庁舎

※喫茶営業：月～金曜日 11：30～15：00

土曜日：市役所清掃、公園トイレ清掃、制服洗濯等

⑥ 行事等

実施日	行事名	場所	実施人数
6月16日	東経大デモ販売	東京経済 大学	利用者1名 職員2名
7月1日～ 3日	夏のスイーツ&ハンドメイドフェア (お仕事ネットワーク販売会)	ミーツ 国分寺	職員2名(各日)
10月8日	どーむ余暇活動 (ポッチャ大会・ビンゴ大会)	障害者センター 多目的室	利用者9名 職員3名
11月2日	東経大デモ販売	東京経済 大学	利用者2名 職員1名
12月3,4日	冬のスイーツ&ハンドメイドフェア (お仕事ネットワーク販売会)	nonowa 西国分寺	利用者2名 職員2名(各日)
3月4日	利用者研修 (マナー研修/ビンゴ大会)	障害者センター 活動室	利用者14名 職員3名
3月23日	家族会	障害者センター 多目的室	利用者家族7名 職員2名

⑦ その他

利用者自治会・お仕事ネットワーク毎月実施

東経大コラボ会議：4月25日、5月30日、7月4日、10月17日、11月21日、

1月30日 zoomで実施

東京経済大学構内、生協常設販売：5月25日、10月13日、11月2日、12月13日納品

5 短期入所・日中一時支援 えんじゅ

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

日中一時支援事業の受け入れ枠の工夫を本年度のえんじゅの活動の柱とし、常に意識して取り組んだ。新しいチャレンジを行うことにより、えんじゅの事業についての理解促進や他事業と連携して利用者の支援に取り組むことの強化につながった。また、令和4年度は緊急入所保護事業として、3件の受け入れを行った。

2)利用者支援

医療的ケア者（児）や重症心身障害者（児）の利用については、特定の介護人が対応するケースが続いている。また、食事介助や身体介助等、普段関わっていない介護人での対応が難しい利用者もあり、日中通所先で対応している職員が、介護人への引継ぎを兼ねて宿泊するケースもあった。家族の高齢化、利用者の身体機能の低下に伴う医療的ケアの増加等、えんじゅで受け入れ支援する必要性とスキルがより一層、求められていることを痛感した

3)OJTの実施

介護人会議を実施し、虐待防止研修・身体拘束に関する研修・児童への関りの基礎的な理解など、Eラーニングを活用して取り組んだ。また、コーディネーターが支援の現場に入り、個々のご利用者の特性や配慮する点等について直接伝えた。これらのことをとおして介護人の安心感を高め、新たな利用者の支援に挑戦する介護人が少しずつ増えている。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

個別事業名	到達状況	課題
1. 受け入れ枠の工夫	<p>日中一時支援事業に関して、開館日の土日に多目的室を活用した取組を定期的に行った。結果、受け入れ人数と時間数が増えた。</p> <p>短期入所事業に関しては、1名での利用を継続したことや、コロナ関連でのキャンセルが年間29件発生し、利用率に大きな影響があった。</p>	<p>受け入れ人数が増え、その中でも、児童の申込みが増えた。成人と児童への関わり方が異なることから、戸惑うこともあった。今後は、児童の特性を理解したサービスを提供できるよう、ヘルパーとともに学びを深めていきたい。</p> <p>平日の利用希望のニーズが多い状況があり、次年度は少しずつ2名利用の受け入れを行い、ニーズに応えていきたい。2名で受け入れる日数を設けることで連泊のご希望等に</p>

<p>2. 入浴希望への取組</p>	<p>車いすを利用されている方の入浴は、二人介助が必要となるため、実施方法の検討を行った。障害者センター館内の機械浴の活用を検討したが、不慣れな介護人では支援が難しいことが課題として挙げられた。介護人への機械浴室を活用しての入浴支援のレクチャーを検討したが、月1回の利用では、経験が積み上がらないことが想定され、結果、リスク管理の観点から難しいと判断せざるを得なかった。また、介護人が不足している中で、職員が宿泊などの対応に従事する場面も増えており、人的に配置も難しいこと、契約時に丁寧に利用者や家族にえんじゅの居室内での入浴が難しいことを説明し、理解を得るよう取り組んでいる。</p>	<p>こたえ、バリエーションをもった体制が可能となる。</p> <p>入浴提供に関しては、ご利用者ご家族に丁寧に説明を行い、引き続き安全安心なサービスの提供に努めていきたい。</p>
<p>3. 医ケア者（児）への充実した対応</p>	<p>日々の体調変化、食形態や服薬の変更等、利用される際の支援内容の変更、対応に苦慮している現状があった。利用されている方は、障害者センターの方が多く、利用者の中には、普段接していない介護人の介助で食事を摂ることが難しい方もおり、通所事業職員との連携、情報共有に今後も取り組み、少しでも柔軟に対応できるよう努めたい。</p>	<p>細かな状況が記載されているマニュアル作成も必要だが、普段接している職員や看護師の対応を見て学ぶ機会を設け、利用者を支援できる環境を整えていくことが必要である。通所事業太陽の利用者の場合、太陽利用時の昼食時に現場で実習することや、普段接している太陽の職員に、えんじゅ利用時の食事介助にを一緒に行い支援方法を学ぶ等も検討していく。</p> <p>医療的ケア者（児）を受入れる際の要件に関しては、市とも再度確認し、取り組む。</p>
<p>4. 安全を確保した受け</p>	<p>今年度、緊急入所保護事業として、3件の受け入れを行った。そ</p>	<p>今後も緊急入所により、初めて利用するケースについては、職員が</p>

1) 活動実績

① 短期入所事業

(単位 日)

	知的	児童	身体	精神	難病	合計	昨年度
4月	25	0	19	2	0	46	49
5月	25	2	18	2	0	47	55
6月	33	2	15	0	0	50	60
7月	31	3	18	0	0	52	77
8月	27	2	10	0	0	39	48
9月	36	0	18	0	0	54	46
10月	36	0	14	0	0	50	52
11月	27	0	14	0	0	41	58
12月	36	0	16	0	0	52	58
1月	31	0	18	0	0	49	43
2月	31	0	12	0	0	43	35
3月	32	0	14	2	0	48	51
合計	370	9	186	6	0	571	632

※キャンセルがなく、予定通りのご利用であれば月52.4日と目標に近い数字で推移していた。令和3年度と比較してキャンセルの件数が増えている。

② 日中一時支援事業

(単位 時間)

	知的	児童	身体	精神	難病	合計	昨年度
4月	34	48	72	0	0	154	93
5月	40	51	59	0	0	150	126
6月	34	38	35	0	0	107	85
7月	34	69	68	0	0	171	174
8月	49	135	44	0	0	228	158
9月	39	71	47	0	0	157	141
10月	42	73	39	0	0	154	110
11月	26	62	40	0	0	128	131
12月	14	125	56	0	0	195	189
1月	13	93	58	0	0	164	121
2月	7	73	52	0	0	132	126
3月	27	140	46	13	0	226	243
合計	359	978	616	13	0	1966	1692

※多目的室の利用で受入れ人数と時間が増えた。また児童の利用者数が増加傾向である。

③ 緊急入所保護事業

	件数	日数	昨年度件数	昨年度日数
4月	0	0	0	0
5月	0	0	1	4
6月	0	0	0	0
7月	1	3	1	2
8月	1	2	0	0
9月	0	0	0	0
10月	0	0	0	0
11月	0	0	0	0
12月	0	0	1	0
1月	0	0	1	0
2月	0	0	0	0
3月	1	3	0	0
合計	3	8	4	6

※8月に緊急入所にて受け入れた案件は、ご家族が新型コロナウイルス感染症に罹患し、緊急の案件として、国分寺市担当所管と協議し「緊急入所保護事業・日中一時支援事業」として受け入れを行った。

④ 医療的ケアのある方の日中一時支援事業利用

	令和4年度			令和3年度		
	人数	日数	時間数	人数	日数	時間数
4月	0	0	0	1	1	7
5月	1	1	5	1	1	5
6月	1	1	4	0	0	0
7月	1	1	7	0	0	0
8月	2	2	10	2	2	10
9月	0	0	0	0	0	0
10月	1	1	5	0	0	0
11月	1	1	5	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	1	1	4
2月	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0
合計	7	7	36	5	5	26

※定期的に利用されている方1名有。

⑤医療的ケアのある方の短期入所事業利用状況（定期的な利用申込有）

	令和4年度		令和3年度	
	人数	日数	人数	日数
4月	2	4	2	4
5月	1	2	2	4
6月	2	4	2	4
7月	1	2	1	2
8月	1	2	1	2
9月	1	2	2	4
10月	1	2	2	4
11月	2	4	2	4
12月	1	2	1	2
1月	2	4	2	4
2月	1	2	1	2
3月	1	2	1	2
合計	16	32	19	38

⑥ キャンセル状況

	短期入所事業		日中一時支援事業	
	人数	日数	人数	時間
4月	1	2	3	12
5月	2	4	3	16
6月	0	0	1	2
7月	5	10	4	20
8月	7	14	3	18
9月	3	6	3	10
10月	1	2	5	14
11月	2	4	4	18
12月	3	6	2	9
1月	1	2	3	13
2月	2	4	3	12
3月	2	4	4	24
合計	29	58	38	168

※通所事業の利用自粛に連動し、短期入所事業利用キャンセルが増える傾向にあった。
 日中一時支援事業については、一次予約確定後のキャンセルが月平均3.1件、14時間発生した。児童のご利用でご家族の都合によるキャンセルの理由が多くあった。キャンセルが発生したことにより、介護人への休業補償も連動して発生した。

6 保健衛生事業

1. 事業全体を振り返って

1) 事業運営

- ① 人工呼吸器装着者への合理的配慮や、同伴している家族の負担軽減のため、単独通所を目標とし、継続して段階的な計画の進捗を図った。また、医療的ケア児(者)の新規入所や、利用者の重度化・高齢化により、医療的ケアが必要な利用者は増加傾向である。そのため、看護師だけではなく、支援員も呼吸器装着者を始めとする医療的ケア児(者)に対する理解増進や医療的知識や技術のスキルアップを図り、支援員と看護師が医療面や、健康面に関する知識や技術を計画的に習得し、互いに連携し、安心安全な支援が行えるように取り組んだ。
- ② 令和4年度も法人が運営している事業で、新型コロナウイルス感染症が発生したが、必要な対策をとり、感染症が拡大しないよう努めた。令和3, 4年度の経験から、対応策をとるにあたって、産業医との連携は必要であることを認識した。今後も連携を意識し取り組んでいく。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

個別事業	到達状況	課題
医療的ケアの必要な方の支援の充実	<p>① 日中一時支援・短期入所事業では、必要に応じてマニュアルの見直しを行った。また、医療的ケアの方が利用される際は、安定した利用が可能となるよう看護師が従事する時間を設け、医療の視点からの把握にも努めた。</p> <p>②呼吸器装着者の単独通所を目指し、国分寺市、ご家族と話し合い作成した計画に基づき進めた。実施する中で、看護師・職員の支援における役割の明確化や支援職員が安心安全に支援できるよう段階的に取り組んだ。その中で、医務研修を定期的実施し、看護師と支援員が医療的な知識と技術を習得し、看護師と支援員で連携し、互いにスキルアップを図れるよう取り組んだ。</p> <p>③ 支援員のたん吸引等の研修は、東京都で開催する研修を活用し、指定の職員に基本研修の受講を実施し</p>	<p>・医療的ケアが必要な利用者の重度化・高齢化や新規利用による増加傾向の中、安定した対応が可能な看護師の体制づくりが必要である。</p> <p>・生活介護事業太陽、短期入所事業えんじゅにおいて、医療的ケア児(者)の利用希望が増え、医療的ケアを伴う支援が増えている。安心安全にサービスを提供するためには、更に看護師と支援員の連携の強化が必要である。</p> <p>・医療的ケアが必要な方が増加傾向の中、医療的ケアを伴う支援体制の構築と合わせて、たん吸引等の研修を計画的に実施する必要がある。</p> <p>上記のことを進めるにあたって、看護師の役割分担の明確化と増員が必要である。</p>

	<p>た。また、今後習得した知識や技術を支援で活かせるように、中期計画に連動して作成した「支援員の医療的ケア実施」の取組に向けて準備を行った。</p>	
感染症対策	<p>① 各事業所に、手洗い・嘔吐物処理研修実施を奨励した。また、一部の事業所（どーむ・ひかり・この葉）で実施し、職員の衛生面のスキルアップを図った。また、感染状況に合わせて、施設の清掃・消毒の実施や、利用者や職員、来館者の検温を継続的に実施した。</p> <p>新型コロナ感染症を含む感染症に関して、情報収集を行い、嘱託医と連携を図りながら必要に応じて情報提供し、感染拡大防止対策に努めた。</p> <p>② 衛生用品の確保・一括管理を行い、必要時に迅速な対応が出来るように努めた。</p>	<p>手洗い・嘔吐物処理研修は、流行の時期に合わせて、法人内全ての事業にて実施できるように研修内容、実施方法の見直しが必要である。</p>
利用者や職員の健康管理	<p>① 利用者の健康診断受診は、市の保健事業、医師会の健診、主治医など複数の手段を活用し、嘱託医と連携を図り、結果に応じて事後の対応に繋げた。</p> <p>② メンタルヘルスチェックや、健康診断を通して、各職員が、自身で改善・解決できるように心身の健康管理に対するサポートを行った。</p> <p>また、健康診断の結果を嘱託医と共有し、必要に応じて受診や健康相談などの勧奨を行うなどのアフターフォローに努めた。</p>	<p>令和4年度は、精神面での不調により、眠れない等の身体症状が発生し結果、5名の休職者が発生した。年度内にて復職訓練に至った者もいるが、産業医との連携が不可欠であることを改めて認識した。引き続き連携を図り対応していきたい。</p>
看護師の計画的な人材育成	<p>① 法人職員として必要な知識の獲得や情報共有のために、会議や研修への参加が出来る体制を整えた。</p> <p>② 外部講師による医務研修を開催</p>	<p>中期計画に連動しながら、定期</p>

	し、グループワークで指導役を務めるなど、看護師としてのスキルアップを図った。	的に医務研修を実施し、外部研修に参加するなど、計画的に実行できる体制を整える。
--	--	---

3. 事業内容

1) 生活介護事業 太陽

- ①健康診断：毎月第1・第3金曜日 計24回実施
- ②定期健康診断：年1回（嘱託医1回・市の保健事業や医師会健診も活用した）
- ③健康相談：必要時に対応（本人・家族・職員対象に、必要時嘱託医との面談を行い医療機関を紹介した）
- ④歯科健診：年1回（6月17日）
- ⑤ブラッシング指導：月に1回 計12回
- ⑥感染対策：インフルエンザ予防接種勧奨・実施
- ⑦細菌検査年2回（全員異常なし）
- ⑧受診同行5回・家庭訪問1回・学校訪問1回・緊急時対応3回・関係者会議2回
- ⑨医療的ケア対応（人工呼吸器の管理・経管栄養・気管切開部の管理・痰の吸引・導尿・褥瘡処置・発作時座薬挿肛・浣腸）・マニュアルの見直し・主治医との連携
- ⑩毎日の健康チェック、服薬管理、活動への参加、送迎添乗
- ⑪主治医・地域医療機関との連携
- ⑫リハビリ会議・PT/OTとの連携・福祉用具の作成や導入の支援
- ⑬摂食支援：摂食会議・多摩クリニック受診勧奨・往診対応7回

2) 自立訓練事業 はばたき（機能訓練・生活訓練）

- ①必要時バイタル測定・体重測定・外傷処置・栄養相談・健康相談
- ②随時・定期健診の受診勧奨
- ③細菌検査（年2回）利用者全員異常なし
- ④ブラッシング指導

3) 地域活動支援センターつばさ

- ①外傷処置・体調不良者の対応
- ②健康相談・病院紹介・電話相談（随時）

4) 短期入所事業・日中一時支援事業えんじゅ

- ①利用者の把握と体調不良時・急病・外傷などの対応、健康相談
- ②救急セットの管理、衛生管理
- ③痰の吸引、経管栄養など医療的ケアを必要とする利用者の対応

5) 就労継続支援事業B型 どーむ

- ①毎月の細菌検査：（毎月全員異常なし）
- ②毎月の体重測定と健康相談
- ③感染対策：手洗い研修1回
- ④随時：健康相談・栄養相談

6) 職員

- ①健康診断 年1回（深夜業従事者 年2回）
- ②細菌検査 年2回 対象職員のみ（5月、1月：全員異常なし）
- ③緊急受診・健康管理と健康相談・メンタルヘルス相談・予防接種の勧奨など

④手洗い研修・汚物処理研修

7) 要医療的ケア者の受け入れ状況

①通所：経管栄養（6）たんの吸引（6）吸入（1）呼吸器（3）褥瘡処置（1）

（ア）日中一時：経管栄養（4）たんの吸引（1）

（イ）短期入所：経管栄養（1）たんの吸引（1）夜間不要

②医療的ケアの実施、実施に向けて主治医との面談・指示書依頼、家庭訪問・研修受講など

8) 研修

①医務ミニ研修実施 2回（外部講師による）

②職員全体研修参加（外部講師による）3回：看護師全体

③内部研修参加 看護師全体

④医療的ケア指導者研修 1名

3. 従事者育成に係る研修実施状況

1) 職員研修

令和4年度も多くの研修がオンラインで行われ、職員が受講できる環境を整え、業務の調整を行い、積極的に研修を受講した。

研修種別	研修数	参加者数
支援に関する研修	33	53
資格取得の為の研修	5	7
経験年数により参加する研修	1	1

事例検討会（スーパービジョン、コンサルテーション）

事業名	名前
地域活動支援センターつばさ	利用者事例検討会 33回
	協力員スーパービジョン 11回
生活介護事業太陽	利用者事例検討会 2回
	医療的ケア研修 2回
	支援に関する研修 2回

2) 権利侵害防止の取組

虐待を発生させない労働環境をつくることを目的として、外部講師による研修を3ヶ年計画にて実施することとし、その初年度を行った。就業規則に定められている週の時間数40時間従事する職員は全員参加とし、年3回実施した。その他に管理職のみの研修を1回実施した。利用者への虐待は絶対してはならないこと、それは当然のことと理解をしている。しかし、仕事をしながら孤独感や相談できない不安、疲弊感を表出できないことで、いつの間にか職員間のチームワークが崩れてしまうことがあると思われる。職員一人ひとりがまずは、安心感を抱きながら、信頼感をもって支援できるよう、そのような労働環境を構築することを目指し引き続き取り組んでいきたい。

4. 利用者の声をきく取組

指定管理事業として運営しているセンターでは、通所事業と短期入所事業については第三者評価を、その他の事業については利用者アンケートを実施した。満足度の結果は以下の内容である。

		回答者数		大変満足 (はい)		満足 (どちらかといえばはい)		満足計	
		人	%	人	%	人	%	人	
第三者評価	生活介護	28	29%	8	43%	12	71%	20	
	自立訓練	5	20%	1	60%	3	80%	4	
	就労B型	14	29%	4	57%	8	86%	12	
利用者アンケート	短期・日中	33	42%	14	42%	14	85%	28	
	計画相談	131	53%	69	30%	39	82%	108	
	地域活動 支援 センター	30	67%	20	23%	7	90%	27	
計		241	48%	116	34%	83	83%	199	

第三者評価、利用者アンケートそれぞれ、約77%、約86%、法人全体としては、約83%との結果であった。第三者評価、利用者アンケートは、一つの指標だが、今後も利用者の声を反映する取組を行い、利用者の方により満足いただけるよう努めていきたい。

※令和4年度第三者評価報告書、利用者アンケート報告書別途添付

5. 令和4年度 苦情受付・対応件数報告

利用者のご意見を伺うことを目的として、国分寺市障害者センター1階コミュニティ広場に、ご意見箱を設置している。令和4年度においては、ご意見が提出されることはなかった。

苦情案件については、令和4年11月に送迎委託業者乗務員による交通違反が発生し、この件について苦情が寄せられた。車両に設置しているドライブレコーダーにて、違反行為の確認を迅速に行い、改善に向けた取組の検討を委託業者とともに実施した。安心・安全な送迎業務が求められていることを改めて、意識するご意見であった。

国分寺市障害者センター資金収支明細書

(自令和4年4月1日 至令和5年3月31日)

別紙3(㊟)
(単位:円)

事業活動による収支	勘定科目	生活介護 事業太陽	生活訓練 はばたき	機能訓練 事業 はばたき	地域活動 センター	短期入所 事業 えんじゅ	指定計画 相談支援 事業	指定障害児 相談支援 事業	指定地 域移行 支援事 業	指定地 域定着 支援事 業	就労継続 支援事業 と一む	日中一時 支援事業	合計	内部 取引 消去	拠点区分 合計
収入	就労支援事業収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,922,898	0	7,922,898	0	7,922,898
	喫茶いずみ事業収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,380,295	0	3,380,295	0	3,380,295
支出	スライズいずみ事業収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,836,603	0	1,836,603	0	1,836,603
	クリーンいずみ事業収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,706,000	0	2,706,000	0	2,706,000
	障害福祉サービス等事業収入	258,147,785	15,073,765	13,384,463	38,628,000	18,943,901	19,711,299	18,520,327	0	0	29,551,895	8,746,100	420,707,505	0	420,707,505
	自立支援給付費収入	136,102,016	4,324,277	1,681,625	0	7,195,398	11,620,299	0	0	0	14,015,747	3,395,700	178,335,062	0	178,335,062
	介護給付費収入	136,102,016	0	0	0	7,195,398	0	0	0	0	14,015,747	3,395,700	146,693,114	0	146,693,114
	訓練等給付費収入	0	4,324,277	1,681,625	0	0	0	0	0	0	0	0	20,021,649	0	20,021,649
	計画相談支援給付費収入	0	0	0	0	0	11,620,299	0	0	0	0	0	11,620,299	0	11,620,299
	障害児施設支援給付費収入	0	0	0	0	0	0	3,004,327	0	0	0	0	3,004,327	0	3,004,327
	障害児相談支援給付費収入	0	0	0	0	0	0	3,004,327	0	0	0	0	3,004,327	0	3,004,327
	利用者負担金収入	100,207	0	0	0	0	0	0	0	0	0	155,400	295,510	0	295,510
	特定費用収入	3,016,662	191,488	13,838	0	39,903	0	0	0	0	0	516,118	3,748,706	0	3,748,706
	その他の事業収入	118,928,900	10,558,000	11,689,000	38,628,000	11,698,000	8,091,000	15,516,000	0	0	0	5,195,000	235,323,900	0	235,323,900
	受託事業収入(公費)	118,928,900	10,558,000	11,689,000	38,628,000	11,698,000	8,091,000	15,516,000	0	0	0	5,195,000	235,323,900	0	235,323,900
	経常経費寄附金収入	130,000	0	130,000	20,000	10,000	0	0	0	0	0	10,000	300,000	0	300,000
その他の収入	2,798,336	192,970	130,580	257,795	139,500	266,760	16,160	0	0	0	383,150	137,500	0	4,322,751	
受入研修費収入	59,600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,000	64,600	0	64,600	
利用者等外給食費収入	485,918	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,400	496,318	0	496,318	
雑収入	2,252,818	192,970	130,580	257,795	139,500	266,760	16,160	0	0	0	367,750	137,500	0	3,761,833	
事業活動収入計(1)	261,076,121	15,266,735	13,645,043	38,905,795	19,093,401	19,978,059	18,536,487	0	0	0	37,867,913	8,883,600	433,253,154	0	433,253,154
支出	人件費支出	154,309,827	11,708,706	9,139,752	30,519,681	17,017,787	13,400,544	0	0	0	25,997,736	7,911,183	283,405,759	0	283,405,759
	職員給料支出	61,326,493	5,983,369	4,081,059	17,609,817	5,258,971	6,198,406	6,198,406	0	0	15,736,078	2,541,768	124,934,367	0	124,934,367
	職員給与支出	17,250,244	1,691,875	1,127,916	5,179,459	1,549,100	1,779,087	1,779,087	0	0	4,382,189	767,375	35,506,332	0	35,506,332
	非常勤職員給与支出	45,680,417	2,376,904	2,473,337	2,958,694	9,019,787	2,908,445	2,908,445	0	0	2,075,201	3,982,699	74,383,929	0	74,383,929
	派遣職員費支出	6,064,883	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,064,883	0	6,064,883
	退職給付支出	4,241,415	93,950	94,050	317,625	44,500	473,117	473,118	0	0	255,075	22,250	6,015,100	0	6,015,100
	法定福利費支出	19,746,375	1,562,608	1,363,390	4,454,086	1,145,429	2,041,488	2,041,488	0	0	3,549,193	597,091	36,501,148	0	36,501,148
	事業費支出	21,929,154	1,245,168	3,186,110	3,165,642	500,873	717,940	717,939	0	0	2,624,343	363,140	34,450,309	0	34,450,309
	給食費支出	3,014,762	192,236	13,090	0	11,068	0	0	0	0	504,526	0	3,735,682	0	3,735,682
	保健衛生費支出	774,656	4,290	9,125	13,139	6,687	0	0	0	0	199,045	0	1,006,942	0	1,006,942
	教養娯楽費支出	412,227	49,245	115,989	154,457	0	0	0	0	0	0	0	731,918	0	731,918

勘定科目	生活介護 事業太陽	生活訓練 はばたき	機能訓練 はばたき	地域活動 支援 センター	短期入所 事業 えんじゅ	指定計画 相談支援 事業	指定障害児 相談支援 事業	指定地 域移行 支援事 業	指定地 域定着 支援事 業	就労継続 支援事業 と一心	日中一時 支援事業	合計	内部 取引 消去	拠点区分 合計
本人支給金支出	256,444	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	256,444	0	256,444
水道光熱費支出	7,975,145	884,653	589,770	1,274,614	277,499	637,307	637,307	0	0	1,336,620	277,495	13,890,410	0	13,890,410
消耗器具備品費支出	2,128,918	92,299	62,493	376,089	168,771	0	0	0	0	187,960	43,157	3,059,687	0	3,059,687
保険料支出	548,370	22,445	22,445	26,398	10,998	80,633	80,632	0	0	261,238	16,638	1,069,797	0	1,069,797
賃借料支出	1,062,316	0	99,906	258,720	0	0	0	0	0	99,906	0	1,520,848	0	1,520,848
教育指導費支出	5,359,411	0	2,233,813	1,062,225	0	0	0	0	0	35,048	0	8,655,449	0	8,655,449
車庫費支出	265,600	0	39,479	0	0	0	0	0	0	0	0	340,127	0	340,127
雑支出	131,305	0	0	0	25,850	0	0	0	0	0	25,850	183,005	0	183,005
事務費支出	82,911,605	1,018,055	1,073,619	2,881,157	401,093	438,285	438,286	0	0	3,002,978	224,977	92,390,055	0	92,390,055
福利厚生費支出	520,331	33,227	31,342	125,777	27,965	50,577	50,577	0	0	92,658	13,773	946,227	0	946,227
旅費交通費支出	11,857	7,360	3,156	64,759	0	21,194	21,194	0	0	946	0	130,466	0	130,466
研修研究費支出	216,564	31,572	23,392	27,214	23,391	12,982	12,983	0	0	47,645	23,391	419,134	0	419,134
事務消耗品費支出	776,093	40,482	132,574	378,979	63,400	35,311	35,311	0	0	23,755	10,391	1,496,296	0	1,496,296
印刷製本費支出	5,946	634	390	26,340	4,922	5,362	5,361	0	0	2,145	5,556	56,656	0	56,656
通信運搬費支出	940,268	107,642	74,230	179,292	78,283	132,548	132,548	0	0	125,996	85,878	1,856,685	0	1,856,685
広報費支出	98,000	0	0	0	35,338	0	0	0	0	33,000	35,337	202,675	0	202,675
業務委託費支出	74,585,893	0	0	1,227,050	66,000	137,500	137,500	0	0	0	0	76,153,943	0	76,153,943
手数料支出	178,740	2,420	52,569	33,177	54,065	9,432	9,433	0	0	91,209	9,405	440,450	0	440,450
賃借料支出	4,854,082	775,881	740,299	756,980	28,001	20,337	20,336	0	0	669,137	28,001	7,893,054	0	7,893,054
土地・建物賃借料支出	13,247	13,247	13,247	13,245	13,245	6,622	6,623	0	0	1,540,505	13,245	1,633,226	0	1,633,226
租税公課支出	80,176	0	0	124	200	0	0	0	0	273,239	0	353,739	0	353,739
保守料支出	449,438	0	0	0	0	0	0	0	0	30,800	0	480,238	0	480,238
諸会費支出	129,300	0	0	20,100	0	0	0	0	0	12,500	0	161,900	0	161,900
雑支出	50,670	5,590	2,420	28,120	6,283	6,420	6,420	0	0	59,443	0	165,366	0	165,366
就労支援事業支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,922,898	0	7,922,898	0	7,922,898
就労支援事業販売原価支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,449,023	0	3,449,023	0	3,449,023
就労支援事業販管費支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,473,875	0	4,473,875	0	4,473,875
その他の支出	486,574	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	486,574	0	486,574
利用者等外給食費支出	486,574	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	486,574	0	486,574
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	259,637,160	13,971,929	13,399,481	36,566,480	17,919,753	14,556,768	14,556,769	0	0	39,547,955	8,499,300	418,655,595	0	418,655,595
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	1,438,961	1,294,806	245,562	2,339,315	1,173,648	5,421,291	3,979,718	0	0	△1,680,042	394,300	14,597,559	0	14,597,559
施設整備等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設整備等	120,384	0	0	101,310	0	0	0	0	0	0	0	221,694	0	221,694
固定資産取得支出	0	0	0	101,310	0	0	0	0	0	0	0	101,310	0	101,310
車両運搬具取得支出	0	0	0	101,310	0	0	0	0	0	0	0	101,310	0	101,310
器具及び備品取得支出	120,384	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	120,384	0	120,384

助定科目	生活介護 事業太陽	生活訓練 はばたき	機能訓練 事業はばたき	地域活動 支援センター	短期入所 事業えんじゅ	指定計画 相談支援 事業	指定障害児 相談支援 事業	指定地域 移行支援 事業	指定地域 定着支援 事業	就労継続 支援事業 とーむ	日中一時 支援事業	合計	内部 取引 消去	拠点区分 合計
による収支														
	施設整備等支出計(5)	120,384	0	0	101,310	0	0	0	0	0	0	221,694	0	221,694
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△120,384	0	0	△101,310	0	0	0	0	0	0	△221,694	0	△221,694
その収入	積立資産取崩収入	2,654,160	0	0	0	396,520	396,520	0	0	0	0	3,447,200	0	3,447,200
	退職給付引当資産取崩収入	2,654,160	0	0	0	396,520	396,520	0	0	0	0	3,447,200	0	3,447,200
その他の支出	その他の活動収入計(7)	2,654,160	0	0	0	396,520	396,520	0	0	0	0	3,447,200	0	3,447,200
	積立資産支出	853,162	128,169	86,848	293,250	82,800	112,125	0	0	297,193	41,400	2,007,072	0	2,007,072
の活動による収支	退職給付引当資産支出	853,162	128,169	86,848	293,250	82,800	112,125	0	0	297,193	41,400	2,007,072	0	2,007,072
	拠点区分間繰入金支出	0	89,000	0	271,000	115,000	2,067,173	97,000	0	0	54,000	2,693,173	0	2,693,173
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		3,119,575	1,077,637	158,714	1,673,755	975,848	3,638,513	4,167,113	0	△1,977,235	288,900	13,122,820	0	13,122,820
	予備費支出(10)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前期末支払資金残高(12)		73,651,811	4,290,826	6,483,431	14,224,136	6,156,131	14,033,287	13,034,859	0	10,637,127	3,975,663	146,487,271	0	146,487,271
	当期末支払資金残高(11)+(12)	76,771,386	5,368,463	6,642,145	15,897,891	7,131,979	17,671,800	17,201,972	0	8,659,892	4,264,563	159,610,091	0	159,610,091

令和4年度 国分寺市障害者センター 利用状況一覧

月	生活介護事業				自立訓練・機能訓練				自立訓練・生活訓練				就労継続支援B型				合計	
	契約人数	開所日数	理利用日数	平均利用者数	契約人数	開所日数	理利用日数	平均利用者数	契約人数	開所日数	理利用日数	平均利用者数	契約人数	開所日数	理利用日数	平均利用者数	契約人数	理利用日数
令和4年4月	47	20	731	36.6	3	8	20	2.5	5	12	55	4.6	18	25	188	7.5	73	994
令和4年5月	47	19	674	35.5	3	7	21	3.0	5	12	50	4.2	18	23	189	7.3	73	914
令和4年6月	47	22	797	36.2	3	9	27	3.0	5	13	48	3.7	17	26	189	7.3	72	1,061
令和4年7月	47	20	740	37.0	3	8	24	3.0	5	12	56	4.6	17	25	174	7.0	72	993
令和4年8月	47	22	542	24.6	3	8	22	2.8	5	14	54	3.9	17	25	146	5.8	72	784
令和4年9月	47	20	696	34.8	2	9	14	1.6	5	11	46	4.2	17	24	153	6.4	71	909
令和4年10月	47	20	730	36.5	2	8	12	1.5	5	12	55	4.6	18	25	171	6.8	72	968
令和4年11月	47	20	738	36.9	2	8	14	1.8	4	12	45	3.8	18	24	167	7.0	71	964
令和4年12月	46	20	692	34.6	2	8	13	1.6	3	12	36	3.0	19	25	160	6.4	70	901
令和5年1月	46	19	677	35.6	2	8	15	1.9	3	11	33	3.0	19	23	158	6.9	70	883
令和5年2月	47	19	690	36.3	2	7	9	1.3	3	12	25	2.1	19	22	147	6.7	71	871
令和5年3月	47	22	815	37.0	3	8	10	1.3	3	14	28	2.0	18	26	188	7.2	71	1,041
合計	562	243	8,522	421.6	30	96	201	25.3	51	147	530	43.7	215	293	2,010	82.3	858	11,263
平均利用率	46.8	20.3	710.2	35.1	2.5	8.0	16.8	2.1	4.3	12.3	44.2	3.6	17.9	24.4	167.5	6.9	71.5	938.6
平均利用率			92.5%	35.1%								60.7%				88.6%		
令和3年度合計	560	233	8,126	417.3	42	94	250	37.4	72	139	667	57.3	212	278	2,150	92.7	886	11,236
令和3年度平均	46.7	19.4	677.2	34.8	3.5	7.8	24.4	3.1	6.0	11.6	55.6	4.8	17.7	23.2	179.2	7.7	73.8	956.3

月	短期入所				日中一時支援				相談支援事業			
	契約人数	開所日数	理利用日数	平均利用者数	契約人数	開所日数	理利用日数	平均利用者数	契約人数	開所日数	理利用日数	平均利用者数
令和4年4月	30	23	0.8	1.4	154	27	999	8	37.0	89		
令和4年5月	31	24	0.8	1.4	150	25	842	10	33.6	75		
令和4年6月	30	26	0.9	1.0	107	28	943	5	34.3	79		
令和4年7月	31	24	0.8	1.5	171	28	969	7	34.6	50		
令和4年8月	31	19	0.6	1.8	228	26	854	5	30.5	70		
令和4年9月	30	27	0.9	1.3	157	26	864	6	33.2	61		
令和4年10月	31	25	0.8	1.3	154	27	803	9	29.7	72		
令和4年11月	30	20	0.7	1.3	128	26	943	5	36.3	80		
令和4年12月	31	25	0.8	1.5	195	26	1031	6	39.7	72		
令和5年1月	31	25	0.8	1.4	164	25	902	11	36.1	64		
令和5年2月	28	21	0.8	1.4	132	22	829	4	37.6	76		
令和5年3月	31	24	0.7	1.7	226	28	855	4	30.5	82		
合計	365.0	283.0	9.4	511.0	17.1	196.0	316.0	108.34	84.0	413.1	87.0	
平均利用率	30.4	23.6	0.8	43.1	1.4	163.8	26.3	80.3	7.0	34.4	73	
令和3年度合計	365	339	11.2	464	15.2	1,697	318	12,278	88	462.5	699	
令和3年度平均	30.4	28.3	0.9	38.7	1.3	141.4	25.5	102.0	7.3	38.5	75.0	

【一般管理費（本社経費），租税公課の算定根拠】

国分寺市障害者センター経費	418,655,595円
他施設1経費	160,837,689円
他施設2経費	51,674,750円
法人本部経費	4,060,265円
総額	635,228,299円

（内訳）人件費、福利厚生費、旅費交通費、事務消耗品費、印刷製本費、通信運搬費、会議費、業務委託費、手数料、保険料、賃借料、土地・建物賃借料、租税公課諸会費、雑支出を計上。

（算定）

- ・按分率：当該施設経費418,655,595円 / （総額635,228,299円 - 本社経費4,060,265円） = 0.6633
- ・当該施設の本社経費：4,060,265円 × 0.6633 = 2,693,173円

【記入例】

当該施設経費	20,000,000円
他施設1経費	18,000,000円
他施設2経費	24,000,000円
他施設3経費	24,000,000円
他施設4経費	14,000,000円
本社経費	5,000,000円
総額	105,000,000円

（内訳）人件費、採用費、研修費、租税公課、減価償却費、広告費を計上。

（算定）

- ・按分率：当該施設経費20,000,000円 / （総額105,000,000円 - 本社経費5,000,000円） = 0.2
- ・当該施設の本社経費：5,000,000円 × 0.2 = 1,000,000円